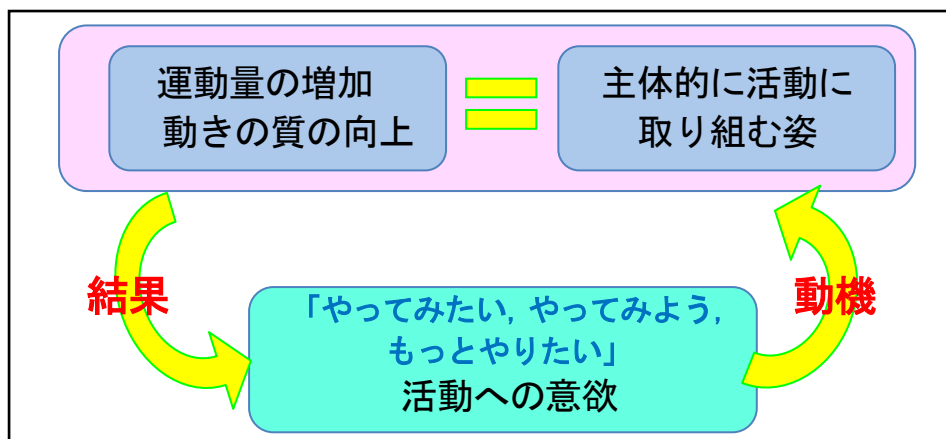


Ⅲ まとめ

1 成果

環境づくりに視点を当て、教師とのやり取りだけにとらわれず、物とのやり取り、仲間と自分とのやり取りで動ける支援を工夫したことで、児童生徒が主体的に活動に取り組む姿や意欲的に活動する姿が様々な場面で見られるようになってきた。児童生徒が自ら動く姿が見られるようになったことで、運動量が増加し、動きに正確さや多様性が見られるようになり、動きの質も向上した。活動への意欲が動機となり、運動量の増加、動きの質の向上という主体的に活動に取り組む姿へとつながり、さらなる意欲の向上へとつながっていった。(図10)



【図10 児童生徒の活動への意欲と取り組む姿】

また、環境づくりに視点を当て、「授業づくりシート」を活用した授業づくりを進めていくことで、教師間で目指す児童生徒の姿が明確になり、指導目標や指導内容、手立ての共有ができた。研修での取組の共有の他、上越教育大学村中智彦先生に何度も本校の授業を参観していただき、授業づくりの視点について御示唆いただいた。研究当初は、教師は児童生徒に付き、個別の支援を行うことが多く、教師が動き、児童生徒の動く機会が少ない授業が多く見られた。しかし、環境づくりに視点を当てた授業づくりを行うことで、児童生徒の実態に合わせた支援や児童生徒が自ら動けるための支援を探求し、授業に取り入れることができるようになってきた。教師は児童生徒ではなく場に付くことや教師の役割分担を明確にすること、児童生徒自身が役割を担うこと、支援ツールを効果的に配置し、実態に応じて活用すること等の環境づくりの大切な視点を確認しながら、授業づくりを進めることができた。確かな授業づくりの視点や手立ての共有が、連携協同の姿勢で授業づくりを行うという教師の協同の促進へとつながり、環境づくりに視点を当てた授業づくりに全員参画することができた。

2 課題

本研究では「授業づくりシート」を用いて授業づくりを行い、「環境づくり事例集」や「指導内容一覧表」を作成し、取組を進めてきた。それらの成果物を、さらに実践的に活用していくことが今後の課題である。環境づくりに視点を当てた授業づくりを他教科等へも広げ、本校のスタンダードなることを目指していきたい。「やってみたい、やってみよう、もっとやりたい」という児童生徒の姿を目指し、これからも授業づくりに励んでいきたい。

